

美濃市 S D G s 推進計画

2024年（令和6年）3月
美濃市

目次

策定の目的	2
持続可能な開発とは	3
1. 将来ビジョン	4
(1) 地域の実態	4
(2) 今後の取り組む課題	5
(3) 2030年のあるべき姿	6
(4) 持続可能性を高める為の取組	6
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	7
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組	7
(2) 情報発信	11
(3) 取組の普及と展開	12
3. SDGs推進による地域社会の活性化	12
(1) 市民に期待する取組	12
(2) 事業者、団体に期待する取組	16
4. 推進体制	17
(1) 計画への反映	17
(2) 行政内部及び外部の執行体制	18
(3) SDGsの理解浸透	18
(4) ステークホルダーとの連携	18
(5) 自律的好循環の形成	19
5. 地方創生・地域活性化への貢献	19

【参考資料】

美濃市第6次総合計画・SDGs関連表

策定の目的

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、持続可能でより良い世界を目指す為に2015年の国連サミットで採択された国際目標である。「誰一人取り残さない」との原則のもと、17の目標が設定され、2030年を達成期限と定められた。

SDGsの実現に向けては、国レベルだけではなく、市民の暮らしに密着した地域の取組も重要であり、その基本理念は住民の福祉の増進を図ることを目的とする地方自治体において、非常に共感のできるものである。

美濃市では、2021年（令和3年）度から令和12年度を計画期間とする「美濃市第6次総合計画」において、目指すべき将来都市像として「一人ひとりが挑戦夢かなえるまち」を掲げており、その実現に向けて市が推進する施策や事業は、SDGsと関わりが深いものである。

そこで、「美濃市SDGs推進計画」を定め、2030年のあるべき姿を位置付けるとともに、庁内外に発信・共有することで美濃市全体でのSDGsの理念等に対する関心を高める機運を醸成する。さらには、SDGsの達成に向けて、行政、事業者等、市民がそれぞれの取組を行うことにより、「魅力と活力あふれる持続可能なまち」の実現を目指していく。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発とは

持続可能な開発とは、「今」のことだけではなく、「未来」の人や環境のことを考えて行動し、これからの発展につなげることを意味する。例えば、私たちの財産であるきれいな山や川等の自然環境を守ること、限りある資源を大切に使うこと、昔から伝わる伝統や文化を次世代に引き継ぐこと等は、持続可能な開発に結び付く取組のひとつといえる。



※Credit:Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University
(美濃市で一部翻訳を追記)

この図はSDGs ウエディングケーキモデルといわれるもので、ケーキの土台の部分に「環境」の層があり、その上に「社会」と「経済」の層が重ねられている。経済は社会に、社会は環境に支えられており、経済や社会の発展には豊かな環境が必要不可欠であることを表している。持続可能な開発を進めるには、これらの三側面を調和させることが大切である。

Ⅰ 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

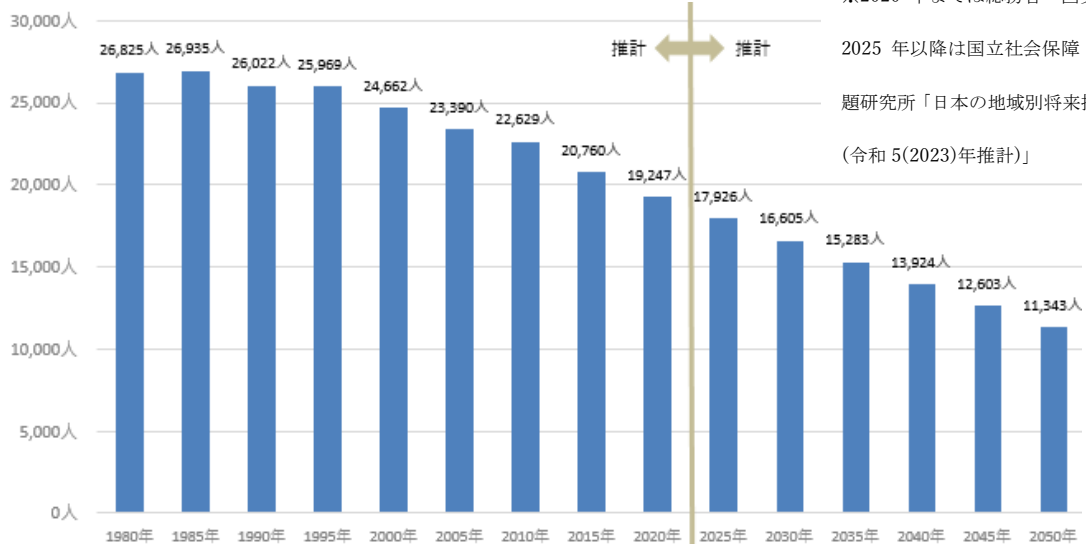
美濃市は濃尾平野の最北端に位置している。面積（117.01 km²）の約8割（92.27 km²）が森林であり、清流長良川や板取川等を有する自然豊かなまちである。また、1300年の伝統を誇る「美濃和紙」や、重要伝統的建造物群保存地区「うだつの上がる町並み」等の豊富な歴史的・文化的資源を有する伝統文化が息づくまちである。

(人口動態)

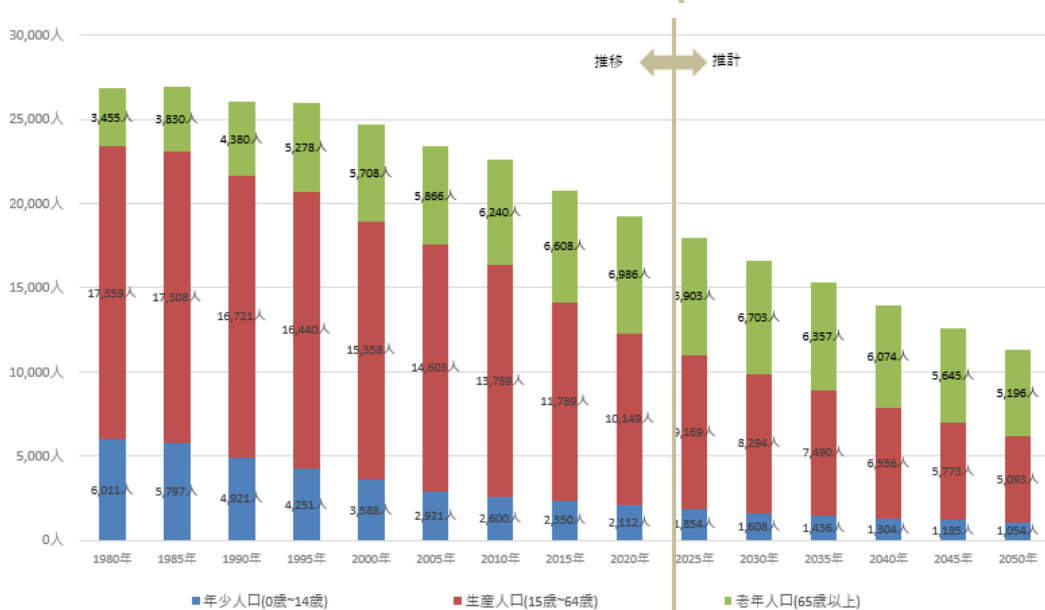
美濃市の総人口は、1985年の26,935人をピークに、以降減少に転じており2050年には、11,343人まで減少すると推計されている。

年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳～64歳）の割合は、一貫して減少する一方、老年人口（65歳以上）の割合は、年々増加している。

美濃市における人口の推移及び推計



美濃市における年齢3区分人口の推移及び推計



(産業構造等)

美濃市の産業分類別就業者数を見ると、製造業(第二次産業)が最も多く、全体の約50%を占めている。次いで卸売業、小売業(第三次産業)が14%を占めている。

また、全国・県と比べて製造業、農林業の特化係数が高いことが特徴である。

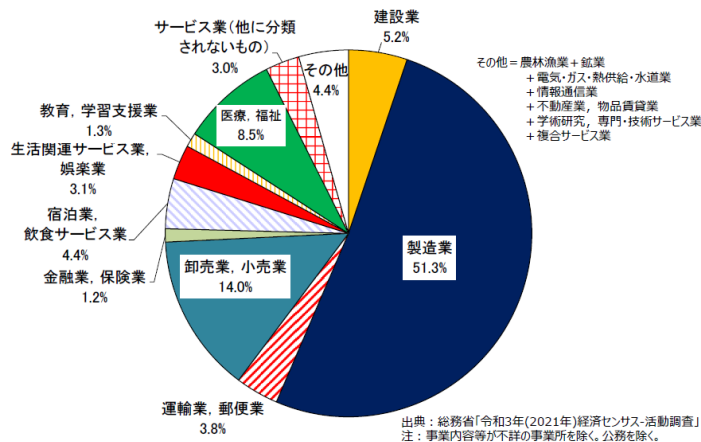
近年の傾向では、農林業(第一次産業)に就業している人は大幅に減少し、第三次産業(卸売業等)に就業している人の割合は増加傾向である。

第二次産業(製造業等)は近年では減少傾向に転じている。

※特化係数とは

全国の平均的な構成比と比較することでどの産業に特化しているのかを示す指標

	事業所数	従業者数		産業別従業者数の構成比による特化係数	
		(人)	構成比	全国=1.00	県=1.00
総数	1,195	10,304	100.0	1.00	1.00
農林漁業	12	153	1.5	1.90	1.37
鉱業	0	0	0.0	0.00	0.00
建設業	119	534	5.2	0.80	0.76
製造業	333	5,282	51.3	3.37	2.07
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0.0	0.00	0.00
情報通信業	2	4	0.0	0.01	0.05
運輸業、郵便業	17	391	3.8	0.67	0.84
卸売業、小売業	251	1,443	14.0	0.70	0.73
金融業、保険業	17	120	1.2	0.45	0.51
不動産業、物品賃貸業	38	88	0.9	0.31	0.48
学術研究、専門・技術サービス業	37	108	1.0	0.29	0.46
宿泊業、飲食サービス業	108	455	4.4	0.55	0.54
生活関連サービス業、娯楽業	77	315	3.1	0.81	0.76
教育、学習支援業	26	129	1.3	0.37	0.47
医療、福祉	57	874	8.5	0.60	0.64
複合サービス事業	10	98	1.0	1.26	1.05
サービス業(他に分類されないもの)	91	310	3.0	0.33	0.42



(2) 今後取り組む課題

人口減少や少子高齢化の進展に加え、地域コミュニティの維持や財政難、さらには、伝統産業や観光産業をはじめ、地域全体が衰退の危機にある。こうしたことを踏まえ、「経済」「社会」「環境」の各面における課題を整理し、各課題の解決に向け推進していく。

【経済面】

○文化が息づくまちづくりの推進

【社会面】

○歴史・文化・伝統の保存、継承

【環境面】

○恵みの源となる豊かな自然環境の保全

(3) 2030年のあるべき姿

先人たちが守り、築き上げてきた自然や歴史・伝統が後世に引き継がれるとともに、それらを活かした地域経済の活性化を目指す。また、心豊かでうるおいのある暮らしを営むことができ、地域の魅力と活力があふれる、持続可能なまちを実現する。

【経済面】

地域資源の活用により、観光をはじめとした基盤産業が成長し、市外からの資金・人材の獲得が進むとともに、産業間・事業者間のつながりの強化により、市内経済全体への波及と経済の好循環が生まれ、まち全体が賑わいと魅力にあふれている。

【社会面】

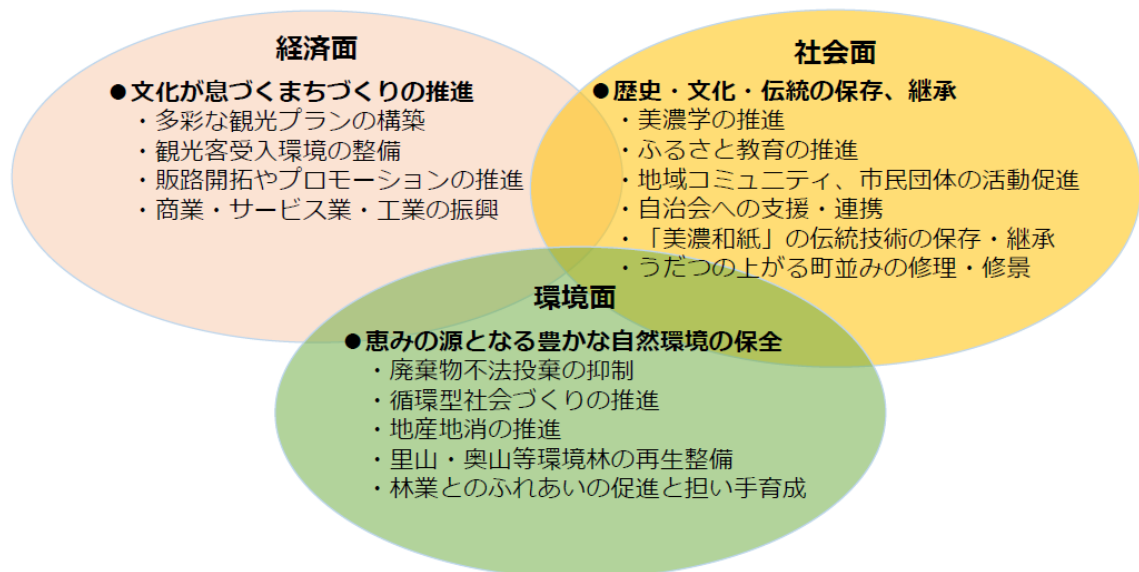
先人から受け継いだ歴史遺産、伝統文化が守られ、学校・地域・事業者等多様な主体（ステークホルダー）の協働・連携した取組により、郷土への誇りや愛着が育まれるとともに、美濃市の歴史・伝統が国内外へ広く周知され、持続可能な地域づくりに対する国際的協働が進んでいる。

【環境面】

川や森、大地等の自然がもたらす多様な恩恵への理解が進み、環境の保全が図られるとともに、豊かな自然の恵みを活かした地域産業の活性化が図られ、さらに地域の自然の恵みを活かすまちづくりが進んでいる。

(4) 持続可能性を高める為の取組

美濃市ならではの伝統文化や豊かな自然資源を最大限に活用し、地域経済の発展と持続可能性を高め、魅力と活力あふれるまちを目指す。



2 自治体SDGsの推進に資する取組

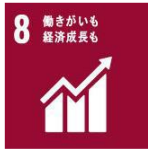

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組

【経済面の取組】

○基本方針（文化が息づくまちづくりの推進）

- 「美濃和紙」「うだつの上がる町並み」「豊かな自然」を最大限に活用し、経済波及効果の高い「滞在・体験型」の観光地づくりを推進
- 各種事業者への支援により地域の「稼ぐ力」を強化し、地域経済の活性化を実現

<p>多彩な観光プランの構築 【施策19】</p> <p>※美濃市第6次総合計画内の施策Noを示しています。</p>	<p>「美濃和紙」や、重要伝統的建造物群保存地区「うだつの上がる町並み」等の歴史・文化的資源のさらなる磨き上げ、産業や自然を活かした体験メニュー等の構築等を行い、それらを組み合わせた「滞在・体験型」の新たな観光プランを造成する。</p>
<p>観光客受入環境の整備 【施策19】</p>	<p>滞在時間や観光消費額の拡大、観光客の利便性を高める観光施設・案内設備等の整備をする。</p>
<p>販路開拓・プロモーションの推進 【施策31】</p>	<p>美濃和紙を用いた新商品開発等の支援を行うとともに、「美濃和紙ブランド」を活用した販路開拓、国内外に対するプロモーションを実施する。</p>
<p>商業・サービス業・工業の振興 【施策26】【施策27】</p>	<p>商店及び商業団体、市内事業者との連携及び支援を通じて、市内産業の活性化を図り、地域の稼ぐ力を強化する。</p>

ゴール番号	取組における評価指標（KPI）	
 	指標：観光入込客数（年間）	
	2021年 66万人	2030年 95万人
	指標：延べ宿泊者数（年間）	
	2021年 10,158人	2030年 30,700人
	指標：美濃和紙ブランド協同組合売上高（年間）	
	2021年 78億円	2030年 82億円

指標：商品販売増加率	
2021年 28億円 (経済センサス活動調査より)	2030年 30億円 (10%増加)
指標：製造品出荷額増加率	
2021年 136億円 (工業統計調査より)	2030年 149億円 (10%増加)

【社会面の取組】

○基本方針（歴史・文化・伝統の保存、継承）

<p>●自治会をはじめとした地域住民との連携・協力により、郷土への愛着、誇りを醸成するとともに、歴史・文化・伝統を後世へ継承</p> <p>●1300年の伝統を誇る「美濃和紙」や、江戸時代に築かれた重要伝統的建造物群保存地区「うだつの上がる町並み」等、美濃市が誇る歴史・文化・伝統の保存</p>

<p>ふるさと教育（美濃学）の推進 【施策17】 【施策20】</p>	<p>市内の伝統的な祭りや風習、文化を後世に引き継いでいく為、市民がふるさとを学ぶ機会を提供するとともに、伝統文化を保存・継承する後継者の育成に努める。</p> <p>学校においては美濃市の人、自然、文化、歴史、伝統、産業を積極的に取り入れ、地域のよさを活かした教育を行うとともに、地域とともに特色ある学校づくりを推進する。</p>
<p>地域コミュニティ、市民団体の活動促進 【施策43】</p>	<p>市民一人ひとりがよりよい「まちづくりの担い手」として活躍できる仕組みを構築するとともに、地域におけるコミュニティ活動の活性化に努める。</p>
<p>自治会への支援・連携 【施策43】</p>	<p>地域生活における防災、福祉、環境整備等、重要な役割を担う基礎組織である自治会と連携し、自治会活動や地域行事等の活動を支援する。</p>
<p>「美濃和紙」の伝統技術の保存・継承 【施策30】</p>	<p>美濃手すき和紙協同組合や本美濃紙保存会等の組織強化や活動支援のほか、手すき和紙技術を習得しようとする人材の発掘や、手すき和紙後継者への技術的な支援等を実施する。また、原料の安定供給にも取り組むほか、簀桁等の用具製作者の育成支援等を実施する。</p>

うだつの上がる町並みの修理・修景 【施策 2 1】	重要伝統的建造物群保存地区内建造物の修理・修景を推進するとともに、周辺地域の歴史的建造物と祭礼を一体的に捉え、美濃和紙の商いで繁栄した商家町としての歴史的風致の維持向上を図る。
------------------------------	--





ゴール番号	取組における評価指標 (K P I)	
  	指標：美濃手すき和紙協同組合会員数	
	2021年	2030年
	18人	16人
	指標：本美濃紙保存会後継者数	
	2021年	2030年
	11人	13人
	指標：重要伝統的建造物群保存地区内修理・修景事業の実施件数（累計）	
	2021年	2030年
150件	195件	
指標：歴史的風致形成建造物の指定件数（累計）		
2021年	2030年	
2件	12件	

【環境面の取組】

○基本方針（恵みの源となる豊かな自然環境の保全）

- 不法投棄の抑制、計画的な森林整備により恵みの源となる清流長良川、板取川及び市域の8割を占める森林等豊かな自然環境の保全を推進
- 廃棄物減量、リサイクルの推進により循環型社会を構築し、環境への負荷を軽減
- 地産地消の推進により食と農についての理解を深めるとともに、郷土への愛着及び環境保全意識を醸成
- 事業者等との連携による市民向けの木育を通じ、林業の担い手となる森林技術者を育成

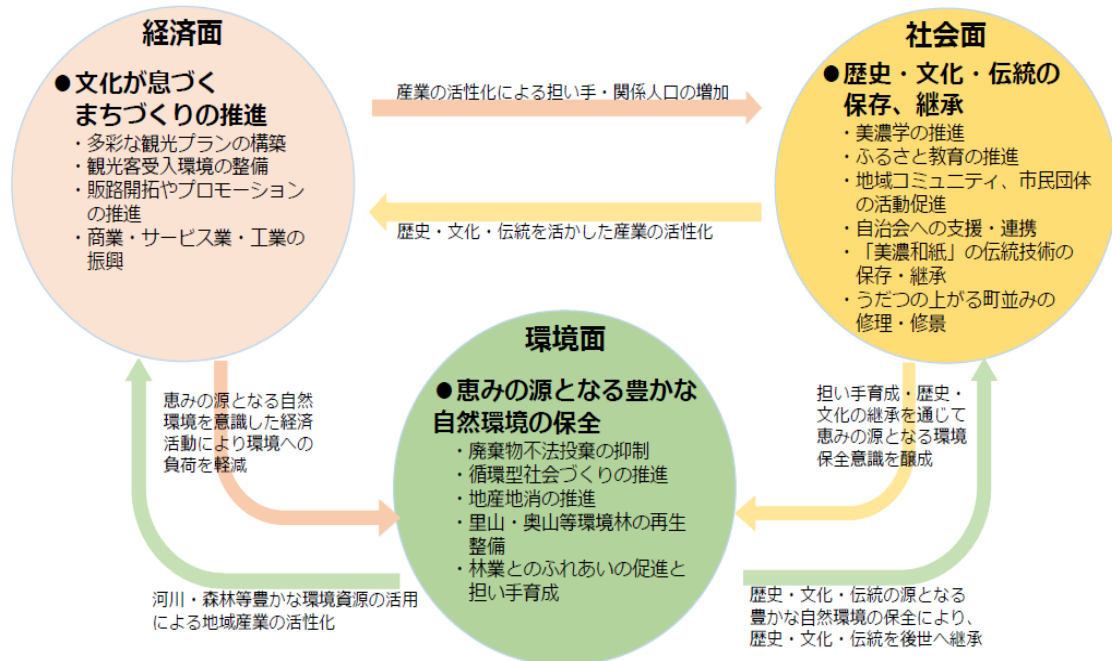
廃棄物不法投棄の抑制 【施策 4 0】	豊かな川や森、山を未来に残せるよう不法投棄の抑制に努めるとともに、利用者へのマナー啓発を実施する。
循環型社会づくりの推進 【施策 4 1】	廃棄物減量、リサイクルの推進により、循環型社会を構築する。
地産地消の推進 【施策 2 4】	市内直売所での農産物販売や学校給食への地場製品の導入による、地産地消を推進する。
里山・奥山等環境林の再生整備 【施策 2 5】	快適でうるおいある生活環境を創出する為、集落周辺の里山や水源となる奥山等環境林の再生整備を推進する。
林業とのふれあいの促進と担い手育成 【施策 2 5】	事業者等との連携による市民向けの木育や森づくり活動を実施し、林業に対する理解を深めるとともに、林業の担い手となる森林技術者の確保・育成を推進する。

ゴール番号	取組における評価指標 (K P I)	
   	指標：河川利用者による廃棄された放置ごみの減量化率（夏期6月～9月の合計）	
	2021年 2.5 t	2030年 1 t (60%減量)
	指標：ごみの減量化率（可燃・不燃・粗大ごみ）	
	2021年 3,775 t	2030年 3,208 t (15%減量)
	指標：リサイクル量の増加率（ペットボトル・食品トレイ・空き缶・ガラスビン）	
	2021年 192 t	2030年 192 t (現状維持)
	指標：森林技術者数（年次）	
2021年 25人	2030年 27人	

○三側面の取組の相乗効果

経済・社会・環境の三側面からの取組を推進し、「魅力と活力あふれる持続可能なまち」を実現

各側面の相乗効果を高め持続可能なまちへ



(2) 情報発信

美濃市のSDGs推進計画の取組について、市内外に積極的な情報発信を図る。

(市内向け)

美濃市におけるSDGsの取組を、ホームページ及び広報誌等の各種媒体を利用し情報発信を行う。記載事項については、17のゴールに市民が取り組みやすい事例を紹介する等市民一人ひとりがSDGs推進を意識するよう啓発する。

なお、情報発信及び普及啓発実施については関係団体等と連携を図る。

(市外向け)

美濃市の強みを活かし、観光パンフレットやポスター、観光協会公式サイト、各種イベントにおける周知等、観光ツールを活用したSDGsの取組の発信による普及啓発を図る。

また、岐阜県の「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークの活用をはじめ、セミナー、フォーラムの開催における連携等、効果的な情報発信を行う。

(海外向け)

多言語観光パンフレット、ホームページ、SNS等を通じて、情報発信を図る。

(3) 取組の普及と展開

美濃市の伝統文化や豊かな自然資源を軸とし、経済・社会・環境の三側面をつなぎ「魅力と活力あふれる持続可能なまち」を実現するために、市民や地域、各種団体、事業者等の主体的な取組を促し、意識の向上を図る。

また美濃市においても、SDGsの活動を市内外に共有・展開していくことで、他自治体や市民及び関係団体・事業者との協働を進める。

3 SDGs推進による地域社会の活性化

(1) 市民に期待する取組

SDGsへの理解を深め、地域活動への参加や環境に配慮した消費等、市民一人ひとりが主体的に考え、生活の中でSDGsの達成に貢献する。

※本取組は、一例を示したものです下記項目以外においても、SDGsの達成のための取組があります。

【家の中でできること】

- 家事や子育ての分担について話し合う
- 水を出しっぱなしにしないようにする
- トイレの水を流すときは大小のレバーを使い分ける
- 太陽光等の再生可能エネルギーを活用する
- 食べ残しや作りすぎを減らし、食品ロスをなくす
- 家族で防災会議を開く



【家の外でできること】

- 地元の農産物を購入する
- 健康診断をうける
- 公共交通機関で移動する
- プラスチック製品の使用を控える
- マイボトルを持ち歩く
- 地域のハザードマップや避難所について調べる




【地域（職場や学校）でできること】

- 貧困の現状や原因について学ぶ
- 働き方改革を実践する
- 友達や同僚と仲良くする
- 開発途上国への支援について学ぶ
- 新しい技術について調べる
- 世界でどんなことが起きている調べる
- 地域社会で学ぶ機会を増やす
- お互いを認め、お互いを大切にする気持ちを持つ
- 差別的な慣行をなくす
- 災害時に助けあえるよう、住民間の絆を深める
- 子ども会や自治会活動に参加してみる
- SDGsの達成に向けたイベントに参加する



(目標別の取組)

1 貧困をなくそう




目標 1
貧困をなくそう

- 子どもの貧困を考える
- 募金や寄附の活動に参加する

※世界中では6人に1人の子ども達が「極度に貧しい」暮らしをしています

2 飢餓をゼロに




目標 2
飢餓をゼロに

- 食べ残しをやめる

※国民一人の食品ロス量は1日あたりお茶碗一杯分になります
年間約7キロの廃棄

3 すべての人に健康と福祉を




目標 3
すべての人に健康と福祉を

- バランスのいい食事と良質な睡眠を心がける

※推奨される睡眠時間は6~8時間未満です

4 質の高い教育をみんなに




目標 4
質の高い教育をみんなに

- 多くの意見を聞き学びあう
- 積極的に学ぶ機会を増やす

※アフリカ地域では、5人に1人が小学校に通えません

5 ジェンダー平等を実現しよう




目標 5
ジェンダー平等を実現しよう

- 育児や家事を平等に分担する
- 育児について話し合う

※6歳から11歳の子供のうち、一生小学校に通うことができない女の子は男の子の約2倍です

6 安全な水とトイレを世界中に



目標 6
安全な水とトイレを世界中に

- 歯磨きやシャワーの水はこまめに止める

※30秒で約6リットルの水が流れます

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



目標7 エネルギーをみんな にそしてクリーンに

- 電気はこまめに消す
 - 再生エネルギーについて考える
- ※世界で電力を使えない人は約7億人です

8 働きがいも
経済成長も



目標8 働きがいも経済成長 も

- ワークライフバランスを大切に
 - 地産地消商品を買う
- ※5歳から17歳までの子どもの5人に1人が、労働を強いられています

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



目標9 産業と技術革新の基 盤を作ろう

- 積極的に新しいサービスや技術に触れてみる
- ※世界で、約2.7億人の人がインターネットにアクセスできません

10 人や国の不平等
をなくそう



目標10 人や国の不平等をな くそう

- いじめや差別をしない・させない
 - 異文化を知ろう
- ※世界のもっとも豊かな1パーセントの人が世界全体の富の約33パーセントを持っています

11 住み続けられる
まちづくりを



目標11 住み続けられるまち づくりを

- 地域の清掃や防災活動に参加する
 - 公共交通機関を使用する
- ※人々が避難や移住をしなければならない自然災害の発生件数が増えています

12 つくる責任
つかう責任



目標12 つくる責任つかう責 任

- ごみの分別をする
 - 不用品はリサイクルに出す
- ※既に地球1個半にあたる資源が使われているといわれています

13 気候変動に
具体的な対策を



目標 13

気候変動に具体的な 対策を

- 車での移動を減らす
- 植物を育ててみる

※日本の熱帯夜の日数は30年前と比較すると2.8倍です

14 海の豊かさを
守ろう



目標 14

海の豊かさを守ろう

- マイボトルやマイ容器を使用する
- 綺麗な川を維持する

※プラスチックゴミが年間900～1400万トン海に流れ出ています

15 陸の豊かさも
守ろう



目標 15

陸の豊かさも守ろう

- 紙資源を再利用してペーパーレス化を進める

※絶滅の危機にさらされている割合です(鳥類14パーセント,哺乳類25パーセント,両生類41パーセント)

16 平和と公正を
すべての人に



目標 16

平和と公正を全ての 人に

- 地域コミュニティを広げ、安全安心なまちづくりに参加する

※世界のどこかで、5分に1人、子どもが暴力によって亡くなっています

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



目標 17

パートナーシップで 目標を達成しよう

- 家族や友人等とSDGsについて話し合う

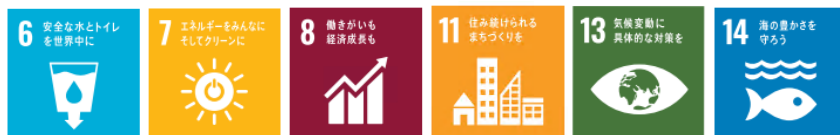
(2) 事業者、団体に期待する取組

経営にSDGsの理念を取り込み持続可能な事業運営を行うほか、専門的ノウハウや技術等を活用した課題解決手法を開発、提供する等、事業を通じてSDGsの達成に貢献する。

※本取組は、一例を示したものです下記項目以外においても、SDGsの達成のための取組があります。

【企業活動でできること】

- 資源や廃棄物の削減・再使用・再利用、環境に配慮した原材料の調達や製品の製造
- 温室効果ガスの排出の削減、再生可能エネルギーの利用
- 高齢者や障がい者の雇用環境の充実と雇用
- テレワーク、サテライトオフィスの導入や活用
- CSR、CSVの実施（学校教育への協力、地域への寄附等の地域貢献活動）
- 災害発生時の行動マニュアルや、初期消火訓練の実施



CSR：企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility) 企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動

CSV：共通価値の創造(Creating Shared Value) 企業が社会課題等に取り組むことで経済的価値を創造しながら社会的価値も創造すること。

4 推進体制

(1) 計画への反映

(美濃市第6次総合計画)

令和3年3月に令和12年を目標年次とした市の最上位計画である「美濃市第6次総合計画」を策定した。本計画は美濃市の掲げる理想のまちの実現を目指すものであり、SDGsに掲げられた目標と同じ方向性であることから、SDGsの17の目標と各施策との関係性を整理し、施策ごとに関連するアイコンを明示したところであり、本計画に基づいた施策の推進を通じて、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性のある社会の実現を目指していく。

(カーボンニュートラルみのアクションプラン)

令和5年9月に令和12年を目標年次としたカーボンニュートラルみのアクションプラン(美濃市地球温暖化対策実行計画)を策定したが、これらにおいてもSDGsの理念を掲げ、取組を推進していくこととした。

※今後策定を行うその他の個別計画等も必要に応じ、適宜、SDGsの理念やゴールを反映していく。

基本目標 1 健康でうるおいのあるまち

政策 1 生涯にわたって健康に暮らせるまちづくり(総論)

施策 1 健康づくりの推進

基本方針

市民一人ひとりが、自分の心身に關心を持ち、「自分の健康は自分で守る」という意識を高めるための啓発や食生活の改善など生活習慣の見直し・改善するきっかけとなる事業を展開し、健康寿命の延伸を目指します。また、国民健康保険制度、後期高齢者医療制度の重要性についての啓発・周知を実施します。

施策の方向

取組	内容	主な事業
健康づくりに関する情報発信 ＜健康センター＞	●講座の開催等、健康づくりに関する知識の普及を推進します。	・出前講座・健康講座の開催
健康文化交流センターを活用した健康づくり ＜健康センター＞	●健康文化交流センターを活用した活動を促進します。	・健康文化交流センターの活用
食育の推進 ＜健康センター＞	●正しい食生活を身に付け、食育を推進し、生活習慣病や肥満予防の普及に努めます。	・食育・栄養に関する各種研修会の開催 ・食生活改善推進協議会の活動の促進
精神保健対策の推進 ＜健康センター＞	●心の健康づくりに関して、市民の実態に即した支援策を実施させ、助け合い・支えあえる環境づくりに努めます。	・心の健康相談の開催
受動喫煙対策の実施 ＜健康センター＞	●たばこを吸わない人(20歳未満・妊婦含む)をたばこの煙から守るため、分煙や換気を促進します。	・地域や職場、各団体が連携し、対策の実施
歯と口の健康に関する知識の普及 ＜健康センター＞	●歯と口の健康に必要な知識を身に付けるために情報提供を実施します。	・小中学校での歯科指導
医療費適正化の推進 ＜高齢福祉部健康課＞	●医療費に対する認識を高め、医療費の抑制に努めます。	・ジェネリック医薬品の普及

まちづくり指標

成果指標	実績値		目標値	
	令和2年	令和12年	令和7年	令和12年
市民(成人)1人1日あたりの食塩摂取量 (出典=県民健康調査)	男性 10.7g 女性 9.0g	男性 9.0g 女性 8.0g	男性 8.0g 女性 7.0g	男性 8.0g 女性 7.0g
肥満の人(BMI 25.0以上)の割合 (BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m))	男性 25.1% 女性 15.4%	男性 23.0% 女性 13.5%	男性 21.0% 女性 11.0%	男性 21.0% 女性 11.0%
健康文化交流センター利用者数(年間)	—	20,000人	—	22,000人

関連するSDGsゴール



基本方針 1 エネルギーを賢く上手に使う (省エネルギー対策の推進)

私たちは、日々の暮らしをはじめとする社会生活の中で、電気、ガス、石油など多くのエネルギーを使用しています。温室効果ガス排出量の大部分を占める二酸化炭素の排出量を削減するためには、より一層、省エネルギー活動に取り組み、いくことが必要です。

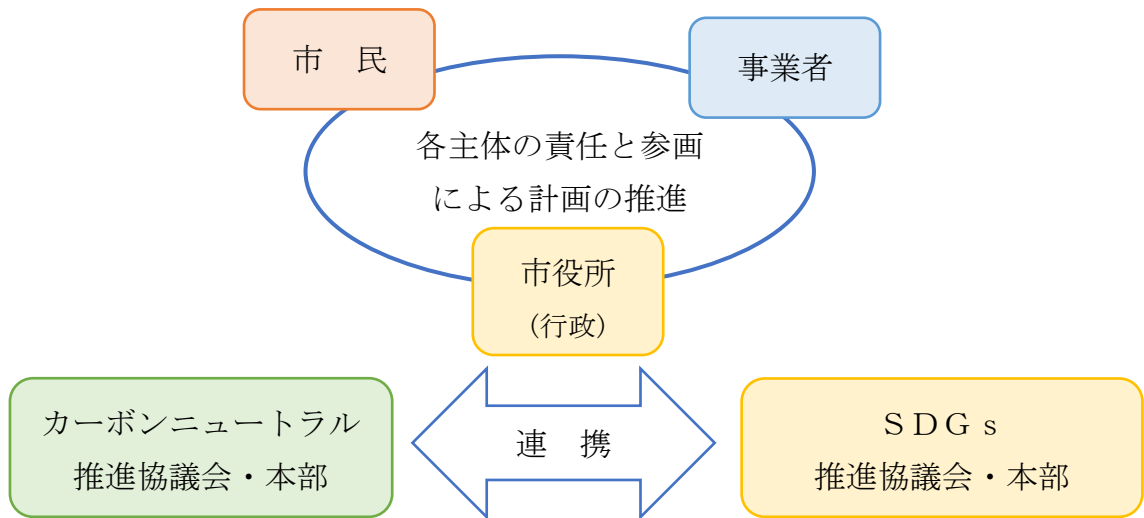
脱炭素社会の実現に向けて、限りあるエネルギーを無駄なく賢く上手に使い、効率的・効果的な省エネルギー活動を推進します。

◆進行管理の指標

指標	現状値	目標値(2030年度)
市域のエネルギー消費量	3,135.1(TJ) (2019年度)	2,664.8(TJ)以下 約15%削減
1世帯当たりのCO ₂ 排出量(家庭部門)	3.05(t-CO ₂) (2020年度)	2.44(t-CO ₂)以下 約20%削減

(2) 行政内部及び外部の執行体制

美濃市におけるSDGsの実現に向けて、市長を本部長とした市幹部で構成する「推進本部」及び市民・事業者・各種団体、行政等で構成する「推進協議会」を中心とした体制で推進する。関連する施策等を総合的かつ効果的に推進するために、関係部署相互が緊密な連携を図り、取組を進める。なお、SDGsの取組に関連が特に深い「美濃市カーボンニュートラル推進協議会及び推進本部」とは、情報共有を図るとともに、横断的に連携して各種取組を進める。



(3) SDGsの理解浸透

市民、事業者、団体等がSDGsに対する主体的な行動に取り組むためには、行政が率先してSDGsに関連した取組を進める必要があることから、職員のSDGsの理念や意義等の理解を深めるための職員研修等を実施する。

また、SDGsとの関連性が高い事業イベント等の実施にあたり、SDGsの理念や意義、必要性、関連情報を積極的に発信する等、市民等に対する情報発信・普及啓発に取り組む。

(4) ステークホルダーとの連携

(国・県との取組と連携)

市単独でSDGsに関する課題解決を行うだけではなく、国・県と連携して、より相乗効果が高い取組の創出を推進する。そのため、国・県の事業等を積極的に活用し連携を図る。

国の地方創生SDGs官民連携プラットフォームや県の「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークを活用し、SDGsに関する情報や先進事例の収集に努める。

(多様な主体との連携)

SDGsに関する各施策を進めるにあたっては、市民や地域の団体、事業者、大学、他の地方自治体等の多様な主体（ステークホルダー）と連携して取組を進めていく。

(5) 自律的好循環の形成

(市民の参画)

美濃市の伝統文化・豊かな自然資源を持続可能なものにするためには、市民の理解と参画が欠かせない。SDG sを「自分こと」と理解し、自発的に地域課題解決に取り組む契機や機運を醸成していく。

また、一人ひとりができること、地域全体でできることについて、自発的に考え行動できるようになる。

(事業者等の参画)

美濃市の伝統文化・豊かな自然資源を持続可能なものにするためには、事業者等の理解と参画が欠かせない。SDG sを「自社のこと」と理解し、自発的に地域課題解決に取り組む契機や機運を醸成していく。

また、SDG sに配慮した事業活動や、地域の環境保全に貢献できる活動を組織として自発的に取り組むことができるようになる。

5 地方創生・地域活性化への貢献

「美濃市第6次総合計画」は、SDG sの理念を踏まえて策定されたものであり、SDG sを踏まえた施策の推進を掲げると共に、全ての施策とSDG sの17ゴールを対応させている。(参考：美濃市第6次総合計画・SDG s関連表)

このことから、本市が総合計画において掲げる将来都市像の実現に向けて取り組むことは、SDG sの推進につながるものである。

本計画は、上記の計画等に基づく取組をSDG sの視点から再構成したものである。本計画に基づく①経済面②社会面③環境面に関する取組を市民や事業者等やステークホルダーと強力で連携し、SDG sの目標達成を図り、取組を着実に推進することにより、「まち」「ひと」「しごと」の創生と好循環の創出、ひいては地方創生・地域活性化に貢献するものである。